

令和 5 年度農林水産データ管理・活用基盤強化事業
農機 API 共通化コンソーシアム 第 2 回事業検討委員会
議事概要

日 時：令和 5 年 11 月 7 日（火） 13:30～15:50

開催方法：Microsoft Teams によるオンライン開催

出席委員：澁澤委員長、飯田委員、川村（周）委員、高山委員、平野委員、土’方委員、山ノ上委員、丸田委員、天辰委員、川口委員、坂根委員、戸谷委員、藤村委員、宮原委員、榎委員、藤原委員、西口委員、伊藤委員、川村（隆）委員、寺元委員、塩見委員、東出委員、安委員、菅野委員、田中委員、深津委員、太田委員、大森委員、臼井委員、青木委員、野田委員

【ポイント】

1. 第 2 回事業検討委員会を開催。参加者は約 100 名。
2. 2 つの機器間連携実証の進捗状況を各代表より報告。自動生成されるデータの扱いについては、間違ったメッセージにならないようにとの指摘。
3. WG1～3 の進行管理役より WG 毎の進捗状況を報告。WG1 では作業機からのデータ取得方法は競争領域、取得されたデータの標準化は協調領域であることを確認。
4. 事務局より、前回委員からの指摘を踏まえ、機器間連携実証と WG の活動に連携しながら取り組んでいることを補足。
5. 事務局から成果物の公表について説明。誰に向けて公表するのかを明記する必要があるとの指摘。
6. 次回の検討会は令和 6 年 2 月末日を予定。

概 要：機器間連携実証の 2 つ実証グループおよび各ワーキンググループ（以下、WG）の状況報告がなされ、質疑応答を行った。また、接続検証の準備状況についての報告も事務局からなされ、質疑応答を行った。
概要（委員からの主な指摘事項と事業担当者からの回答）は以下のとおり。

【挨拶】

- 農研機構農機研 安原所長挨拶（太田部長代読）。
 - 本事業開始以降、活発にその取組を進めていると理解している。本日の事業検討委員会では、各 WG および機器間連携実証の進捗状況等の報告がなされるが、これらの報告に対して、本事業検討委員会の委員、コンソーシアム構成委員など関係者からの助言・指導をお願いしたい。

【機器間連携実証の進捗状況報告】

- 穂海農耕データ連携実証グループの代表、ウォーターセルの藤原委員から報告がなされた後、質疑応答等が行われた。
 - 補助事業申請の簡素化については、曖昧なデータに基づいて申請が進むと、虚構の文章を作りかねない。このまま作業を続けると、間違ったメッセージを出してしまうことになる。また、自動生成による業務日誌についても、実作業の確認が取れないようなデータを業務日誌として生産者に出すことは、データが1人歩きする懸念がある。事務局と進め方を検討してもらいたい。
 - 事務局：補助事業申請の簡素化と作業記録については、いずれも最終的には農業者さんがデータを確認して意思決定をするので、データが一人歩きをすることにはならないと思っている。今後、実現の可能性を本事業の中で確認したい。また、誤ったメッセージにならないよう、成果の出し方を協議しながら進めたい。
 - そもそも要求されるデータと出されるデータの問われるクオリティが違うので、かなり難しく、メーカーさんへの負担も心配される。私はやはり、ゴールへの到達は難しいと思うが、その確認であれば問題はない。
- 施設園芸データ連携実証グループの代表、野花研の東出委員から報告がなされた後、質疑応答等が行われた。
 - この実証自体は完成してないのでデータが出ていないが、次回の検討会の時にはデータも含めて報告してほしい。
 - 次回は、データも含めて報告する。

【各 WG の進捗状況報告】

- WG1（ほ場農業機械）の進行管理役の報告後、質疑応答が行われた。
 - 作業機からどうデータを取るかよりも、取れたデータをどのように標準化し、FMIS に共有をしていくのが重要である。
 - （トラクタ本機メーカー 4 社に確認した結果）作業機からのデータ取得方法は競争領域、取得されたデータの標準化は協調領域とのことなので、引き続き取り組んでもらいた。
- WG2（穀物乾燥調製施設）の進行管理役の報告について、コメント、補足は特に無し。
- WG3（施設園芸機器）の進行管理役の報告について、コメント、補足は特に無し。

【接続検証の準備状況について】

- 議事に入る前に事務局から、この議題は第1回の事業検討委員会において「各ワーキングの取組と機器間連携実証の取組の調和を取るべき」との指摘を踏まえ、可能な限り対応してきた旨の説明があり、その後、事務局担当者から報告の後、質疑応答等が行われた。
 - 今回ニッポーさん、IT 工房 Z さんとかメーカー間のデータ共有が求められるようになってきている。そのあたりに広がっているという点では、いい取り組みになっている。
 - WG2の精米の検査機器関係では、将来的には米の商流も見た中で、どうこれが活用されるのかをある程度想像しながら技術開発を進めてもらいたい。
 - 農業機械と連携した作業記録の自動取得というところは、非常に期待が大きいと思う。おそらくアグリノートさんと同じような課題が出てくると思うが、解決できることを期待する。
 - 農水省の「スマートオコメチェーン」は、実際使う場面を想定して取り組んでいると思うが、そういったところと連携しながらでないと、縦割りになって非常に無駄な事が多くなってしまうことを心配する。
 - 我々の取組は、そういったフードチェーンをデータで繋ぐことが進んでいくなかで、できるだけ機械のデータを出せるような環境を整えていくスタンスで取り組んでいる。
 - 農機のデータを使う場合、Agrihub さんとかウォーターセルさんが、うまく使っていけるようにしないと、農家の皆さんにご活用いただけないので、座長のご指導もいただきながら、農機メーカーの方も頑張って努力して行きたい。
 - 大事なところは、2つの連携実証だと思う。今日の報告で、データの流れの全体像がある程度見えるような形で、農業機械側でどこまで共同してデータを出していけるのか、あるいは運用に協力してくれるのか、というあたりが見えてきたと思う。次回は最終版になる。宿題もいろいろ出たが、よろしく願います。

【その他】

- 事務局より、成果物の公表について説明後、質疑応答が行われた。
 - この公表については、誰に向けて公表するのかを明記する必要がある。公表する相手先の一覧表があると、伝わり方が改善すると思う。
 - 事務局：承知した。
- 事務局より、今後のスケジュール等の説明がなされた。
 - 事務局：本事業検討委員会の3回目については、現時点では2月末ぐらいを目

標にしている。近くなりましたら、事務局より改めて委員の皆様に日程調整の案内をする。

【閉会】

- 事務局
 - いろんな意見、宿題をいただいた。本日の指摘事項等を改めて事務局で整理して、今後の活動に反映したい。
- 農林水産省 大臣官房政策課 技術政策室の齊賀室長より挨拶。
 - 各 WG や実証の取り組みが、着実に進んでいることがよくわかった。結局、この取り組み自体が農業者に、データを活用することがどんな意義・価値があるかを理解してもらい、それで生産性の向上などに取り組んでいただくためのものなので、是非、アジャイル的な進め方をしていただければと思う。また、ISO の標準化の動きが進む予定であり、この検討体制で得られた成果物、議論の内容等が、必ずや国際標準化の検討にも生きてくると思う。皆様の忌憚りの無いご意見を、引き続きいただきたい。